

職員出前講座における主な質疑応答・意見の内容について

講座名：将来に向けたまちづくりについて

テーマ：防災拠点としての新庁舎整備の必要性について

主催：那須烏山商工会青年部

日時：令和5年7月26日（水）午後6時30分～8時00分

場所：那須烏山市金井2-5-11 那須烏山商工会館2階

質疑応答・意見の内容

問 国の有利な財政支援措置として過疎債があると思うが、庁舎整備に使用できるのか。過疎債の上限はいくらなのか。

答 本市では、令和3年に烏山地区が過疎指定となり、令和4年に南那須地区も過疎指定となったことから、市全域が過疎指定されている。過疎債は、学校や公民館といった公共施設の整備には充当できるが、庁舎には使うことができない。過疎債は、国全体で予算枠が決まっており、本市では概ね2～3億円程度が割り当てられている。

問 資料3ページのI s値は平成24年の数値か。現在のI s値はどうなっているのか。

答 資料3ページのI s値は、平成24年に実施した耐震診断結果の値である。その後は耐震診断は実施していないが、診断から11年が経過し、その間にもコンクリートの中酸化等の老朽化が進行しているため、当然、現在のI s値はより低くなっているものと考えられる。

問 資料5ページで、矢板市は災害対策本部を庁舎以外の場所に設置しているとあるが、具体的にはどこに設置しているのか。

答 矢板市は、庁舎の近くにある生涯学習館に災害対策本部を設置することとしている。
※訂正：R3.3から子ども未来館に設置できるよう見直し。

問 本市も矢板市のように庁舎以外の場所に災害対策本部を設置してはどうか。

答 災害時の迅速な意思決定等、市長がいる庁舎に災害対策本部を設置するのが望ましい。また、烏山庁舎の付近の公共施設の大半が耐震基準を満たしていないため、災害対策本部として機能する施設がない。なお、保健福祉センターは、耐震基準を満たした建物であるため、烏山庁舎が機能しなくなった場合の災害対策本部の代替庁舎として指定している。

問 福岡県みやこ町では、町長自らが多くの座談会を開催し、住民と直接意見交換を行ったという事例があるようだが、本市ではそういったことは考えているのか。

答 市民に対し、行政からの情報が十分に伝わっていない。昨年度から、タウンミーティング

グや移動市長室といった事業を通じ、広聴に力を入れている。市長自らが市民の声を聞く機会を数多く設けていきたいと考えている。

問 資料21ページの庁舎整備基金について、去年は積立がなされなかったと聞いているが、なぜなのか。

答 庁舎整備基金の積立を開始した当初、20億円を目標としていた。しかし、近年の物価高騰により、更なる基金の積み増しが必要となってきたため、更なる基金への積立をしようとしたところ、市議会から、当初の目標額20億円に達しているのだから積み増しは望ましくないとの意見があり、理解を得られそうになかったため、やむなく庁舎整備基金の積み増しを断念した。執行部としては、更なる積み増しが必要だと考えている。

意見 各庁舎に各課が分散しており不便。1箇所にとまとめてほしい。息子の妻が車いすを使用しているが、エレベーターがなく、バリアフリー対応になっていない。これでは若い人に本市に来てもらうことができない。

答 多様性が求められている昨今、庁舎のバリアフリー対応、ユニバーサルデザイン対応は必要。利便性の高い行政サービスを提供できるよう配慮していきたい。

問 本庁舎整備の工期はどの程度になるのか。

答 他市町の事例からすると、概ね2年程度必要になると考えている。

問 資料5ページで、足利市も未耐震となっているが、どのような理由か。

答 やはり相当な費用を要することから耐震化されていなかったものと思われる。しかし、早川市長に変わって、庁舎が未耐震のままでは職員の命に関わることや、有事の際に市民の命・財産を守ることができないことから、庁舎整備に舵を切ったもの。
なお、矢板市も今年度から庁舎整備に向けて本格的に取り組んでいる。矢板市の現在の庁舎整備基金は5億円である。

問 どんなに良い意見がまとまっても、市議会を通らなければ意味がない。何か対応策は考えているのか。

答 庁舎整備の必要性について、本日参加していただいた皆様の周りの方にも伝えていただきたい。庁舎整備を求める市民の声が大きくなるとなって市議会に伝われば、今とは違った光景が見えてくるのではないかと考えている。そのために、積極的に出向いて説明をしたり、意見交換を行っていきたい。

問 今回のような職員出前講座は、どれくらいの人数が集まれば実施可能なのか。

答 参加人数による制限は設けていない。例えば5人程度の少人数であっても、真摯に対応

させていただく。

意見 話を聞いていると、市民の声によって議会を動かすということだが、本来は逆である。市民の意見を聞いて活動する議員が必要。議員には、本市が良くなるように動いてもらわなくては困る。議員にはその自覚をしっかりとってもらいたい。

意見 市民が持っている情報と行政が持っている情報とでは、質も量も全然違う。市民からも行政に打ち返して、キャッチボールをしていかないと、深まっていかない。つまらないことでも聞いていいと思う。今回のような場を何回か設けてほしい。庁舎整備をしないことで不利益を被るのは我々市民である。自分事として議論に加わっていかねばまずいという認識を持たなければならない。もう少し規模の小さい場でざくばらんに意見交換をするのも一案。引き続き第2回、第3回と開催していただきたい。

意見 今回の1回限りでは議論が尽くせない。庁舎整備検討委員会と並行して、この出前講座も第2回、第3回と続けて行ってほしい。今日の出前講座はアンケートもあるので、アンケートの内容を庁舎整備検討委員会でも議論していったらと考えている。

意見 第2回庁舎整備検討委員会の傍聴に行ったが、自分以外はマスコミしかいなかった。もっと広く気軽に傍聴してもらえるようアナウンスすべき。また、市民だけでなく、議員にも傍聴に来てもらって話を聞いてもらいたい。